

桐里工房との出会い
—桐は本当に素晴らしい—

〔１〕購入までのいきさつ

桐の食卓と椅子を購入する前は、食卓は合わせ木、椅子は杉の長椅子に座布団を敷いたものでした。長時間座っているとお尻は痛くなるし、疲れは感じるしで、せつかくの友人との食事と語らいが、逆に疲れてしまい残念でなりませんでした。

そこで、何かいい食卓と椅子がないかと思案していたとき、佐賀の村岡屋ギャラリーで桐里工房さんが展示会を開催（平成２４年２月）されているのを知り、会場をのぞいてみました。

一本の大きな桐の木で作られた焼桐の食卓と長椅子が中央に展示してありました。社長の稗田さんが、来客に桐の素晴らしさを熱く語っておられました。その中で、私が“えっ、本当かな”と思ったのが“桐の椅子は、長時間座っていてもお尻が痛くならない、疲れを感じない”という説明でした。それまでは、桐といえば桐のたんすぐらいしか知りませんでしたので私はその説明に半信半疑でしたが、勧められるままに椅子に座ってみました。しばらく座っていると痛みを感じるところか、何となくお尻が暖かくなってきて、今まで感じたことがない心地良さを覚えました。一瞬、“えっ、本当だ”と思いました、どうあがいても手がだせる金額ではなかったので、その日は話を伺っただけで帰りました。

食卓については、使っているものが１５０cmでちょっと短く感じていましたのでどうしても１８０cmがほしくなり、７月に妻と一緒にふらりと桐里工房さんを訪ねました。

展示会で展示されていた長椅子に座って、しばらく奥様と話をしました。奥様から改めて桐の素晴らしさの説明を受け、ある意味納得いたしました。私どもとしては珍しく購入することを即決いたしました。価格は、年金生活に入った私どもにとっては大金でしたが、どうにか捻出できる金額で折り合いがつけました。これから一生（代々）使う食卓と椅子ですので、体に優しいものが一番と考えた次第です。

〔２〕使用して感じたこと

７月に発注し、１０月の初めに納入していただきました。

購入後約１年８ヶ月になりますが、椅子の座り心地は社長の説明通り１００％満足しています。焼木目もきれいで、今更ながら桐の素晴らしさを実感しています。

形状で特筆すべきことは、椅子の中央部に少しくぼみをつけてあることです。実際に座ってみるとよくわかりますが、意識することなく背中がすーと伸びます。大変理にかなった作りです。

厚さが７０mmというのも魅力です。湿度が高いと水分を吸収し、低くと吐き出します。日本の家にとっては理想的な食卓と椅子です。

ところで焼桐の黒色は、磁器（白磁、青磁）、陶器、ガラスの全ての器に合うということです。日本の料理は五行と陰陽によって構成されています。中でも、料理の色は五色—赤、青（緑）、黄、白、黒が基本ですので、食卓の色が黒というのは大いに料理を引き立てます。また、四季折々の一輪挿しの花もよく合います。

余談ですが、桐の下駄がいいですね。奥様の勧めもあって家族で桐下駄を購入し、家の中で履いています。特に冬場は暖かく感じて寒さ知らずです。桐の体に良い特性を再認識した次第です。

私どもにとっては高い買い物でしたが、焼桐の食卓と椅子、大いに満足しています。

歴史と伝統のある桐里工房さん、これからも桐一筋で頑張ってください。

※桐製品の購入を検討されている方へ

桐の素晴らしさは下駄で実感できますので、まずは一度体験してみてください。きっと納得される事と思います。